



なるほど！医療講座

著：串間市民病院 泌尿器科 医師 木田 和貴

「泌尿器科ことはじめ ～前立腺がん検診の最近の知見」

宮 崎大学より串間市民病院へ赴任してきました泌尿器科医木田和貴です。出身地は都城市で宮崎大学研修後、宮崎市、鹿児島市、延岡市、福岡市を巡り、串間市民病院に常勤医として転勤して参りました。日々研鑽精進をモットーに努めて参りますので、何とぞよろしくお願い致します。

泌尿器科疾患は非常に幅広く多岐に渡っていますが、今回は高齢化の進む日本で増加傾向の著しい前立腺がんについて知っていたため、前立腺がんの初期検査に関してお話をさせていただきます。

前立腺は男性特有の臓器で精液の一部をつくる臓器です。前立腺がんは世界的に罹患率の比較的高いと考えられてきました。しかし生活習慣の欧米化に伴い、日本でも前立腺がんによる死亡者数は2015年には2000年の約2倍以上、1995年の約3倍になると予測されています（厚生労働省大臣官房情報部（編）人口動態統計20001 石黒ほか「がん・統計白書」）。この増加はすべてのがんの中で最も高く、この数年間のうちに男性にとって更に身近な病気に

なると考えられます。前立腺がんは65歳以上で罹患率が増加します。初期はがん特有の自覚症状がないことが多いため、早期がん発見・診断には前立腺特異的抗原（PSA）検査を行います。検査は血液検査で行います。

PSA検査の有用性に関する医学的根拠としての研究成果が2010年8月にスウェーデンの研究グループから発表されました。14年間の研究の結果、PSA検査により前立腺がん死亡の危険率が44%減少する事が証明されました。

今回の最新の研究成果を踏まえ、日本泌尿器科学会は前立腺がん検診として確実に前立腺がん死亡率を低下させることのできるPSA検査の普及を強く推奨しています。

一般的にPSA値は4.0ng/ml以下が正常範囲とされていますが、正常範囲内とされる数値であっても追加検査で前立腺がんが発見されることがあります。

統計学的にPSA値が4.0～10.0ng/mlで約30%、10.0ng/mlで約50～80%に前立腺がんが発見されます。また10.0ng/mlを超える場合

は転移を伴ったがんの可能性が高くなります。

一般的に検診でPSA検査を受けた場合、1.0ng/ml以下であった場合は3年ごと、1.1～4.0ng/mlの場合は1年ごとの再検診が推奨されています（前立腺癌診療ガイドライン2006年版、日本泌尿器科学会編）。ただし一般的な見解です。直接泌尿器科医に相談をされるのが適当だと思います。

今回は前立腺がん検診におけるPSA検査の意義と、PSA値によるがん検出率について話をさせていただきました。ご自身の健康のために、前立腺がん検診についてよくご理解いただいた上で、住民検診や人間ドックにおいて前立腺がん検診の受診をおすすめ致します。

また当院ではPSA検査から前立腺エコー検査、MRI、組織検査までの総合的な前立腺がん検査やがん確定後の病期診断に基づく治療法提示と実際の治療に至るまで一貫して行っています。ご不明な点に関するお問い合わせや検査をご希望の方はぜひともご相談いただければ幸いです。何とぞよろしくお願致します。

学校へ行こう

①学習発表会 ②体育大会 ③田植え ④稲刈り



明るく、礼儀正しい、思いやりを持った生徒たち

生徒自ら、学校づくりのため協力しあっています。

今回紹介するのは、福島中学校（八ヶ代俊夫校長、全校生徒302人、職員33人）です。

あいさつ運動

福島中学校の代表的な活動はあいさつ運動です。日常生活の中で自然にあいさつができるように、学校では出会う人すべてにあいさつをするこ

とを心がけています。また、朝のあいさつ運動も実践中。7時半ごろ、学級ごとに校門前であいさつを行っていき、地域の皆さんからも元気なあいさつを喜んでもらっています。あいさつをする習慣を身に付けることで、コミュニケーション力を養っています。

田植え体験

1年生の3月末に始まるイベントが田植え体験です。城山区にある田んぼで生徒た

ちがもち米の苗を手で植えます。7月末の刈取りも生徒たちの仕事。一つひとつかまを使つての刈取りです。収穫したもち米は、秋祭りや販売されるほか、冬にもちつきをして生徒みんなでおいしくいただきます。

八ヶ代校長先生は「福島中学校の生徒たちは、一人ひとりが自覚を持って、学校をより良くしようという気持ちがあふれる、素晴らしい子どもたちばかりです。人生は一度きりなので、納得のいく人生を歩んでほしいと思っています。そのためにも、失敗を恐れないことが大事です。失敗を乗り越えることで、たくましくなっていくと思います。くじけない心を育ててほしいですね」と話していました。

生徒総会で意見を出し合います。



生徒が中心となる学校づくり

福島中学校は生徒自身が学校づくりの中心となっています。生徒総会では前年度の反省のもと、自分たちで考えたスローガンを立てます。平成23年度のスローガンは「信越～ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」です。このスローガンには、前年度よりも良い学校をつくり、みんなが団結して一つのことに取り組んでいきたいという思いがあります。その年のスローガンのもと生徒たちはより良い学校づくりのため活動しています。